



川内小学校だより

# ゆずり葉

第3号 令和6年5月29日



## 子供たちの豊かな体験と 安全確保の両立を目指して！

「校長先生、今年はプールには入れますか？」朝、校門の所に立っていると、子供たちや保護者の皆様によく聞かれます。昨年度は本校のプールの故障により、子供たちの貴重な学ぶ機会を保障することができず、申し訳ありませんでした。「今年はプールに入れます！」小学生時代は様々なことを体験して、感性を磨くことが特に必要だと考えています。ただ気を付けなければならないのが熱中症対策。

今号では、プールや遊び等、子供たちの感性を育てるための活動とともに、熱中症対策等、子供たちの安全・命を守るための取組についてもお知らせします。

### 今年はプールを実施できます

### 2週間早くプール掃除

5月14日(火)にプール清掃を行いました。プールの故障箇所の修理につきましては、令和5年の11月に行っておりますが、完全に使用できるのを確認するためには、プール清掃を行った上で、きれいな水を入れて濾過器を稼働し、水漏れのないことを確認することが必要とのことでした。

そこで、今年度は例年より2週間早くプール清掃を行いました。予定を繰り上げて行ったことから技術員さんと数名での作業となりましたが、本校のプールは汚れ落ちが大変よく、みるみるきれいになりました。

天日干しをして殺菌した後、5月15日(水)午後から翌日にかけて給水。きれいな水で満水にし5月24日

(金)に業者の方に来ていただき、濾過機が正常に稼働できるかを点検しました。そして、5月25日(土)26日(日)と稼働し、水漏れのないことを確認できたときには、本当にほっとしました。これで、今年度のプールを実施することができます。



### 校庭で朝の遊びOKです

昨年度起きた朝の事故をきっかけに、始業前は職員の間も行き届かず、子供たちの安全を守れないことから、朝の遊びを見合わせていました。

しかし、子供たちの成長の観点から、職員でもう一度話し合い、登校後に教室で朝の準備ができれば外で遊んで良いことになりました。遊びは、子供たちの成長にとって不可欠なものです。ただし、始業時刻をしっかりと守る。石を投げない。などのきまりをしっかりと守って、安全に楽しく遊べるよう5月28日(火)の全校朝会で、子供たちにお話しました。

※ 裏面に続く

# 熱中症にならないようにするために

ここ数日、暑かったり寒かったりと気温差の激しい日々が続いていますが、近年、特に気を付けなければならないのが熱中症です。

川内小学校では、日本スポーツ協会「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」を参考に、校庭に設置した熱中症指数測定器を使って測定した結果を基に、20分休みや昼休みに子供たちを校庭で遊ばせてよいか、体育の授業を実施してよいかを判断しています。また、下記の表を職員室入り口に掲示し、本日のWBGTの状況を矢印で示して子供たちが屋外で活動する際に留意しなければならないことの共通理解を図っています。



本日の	WBGT		
	31以上	運動は原則中止	特別の運動以外は中止する。特に子どもの場合は中止すべき。
	28~31	厳重警戒 (激しい運動は中止)	熱中症の危険性が高いので、激しい運動や持久走など体温が上昇しやすい運動は避ける。10~20分おきに休憩を取り、水分・塩分を補給する。暑さに弱い人は運動を軽減、または中止。
	25~28	警戒 (積極的に休憩)	熱中症の危険が増すので、積極的に休憩を取り、適宜水分・塩分を補給する。30分おきくらいに休憩を取る。
	21~25	注意 (積極的に水分補給)	熱中症による死亡事故が発生する可能性がある。熱中症の兆候に注意するとともに運動の合間に積極的に水分・塩分を補給する。
	~21	ほぼ安全 (適宜水分補給)	通常は熱中症の危険は小さいが、適宜水分・塩分の補給は必要である。

※熱中症予防のための運動指針 日本スポーツ協会「スポーツ活動中の熱中症予防ガイドブック」より転載

## プールでの熱中症について

プールでも熱中症になる可能性はあります。寒い日にプールに入れないことは子供たちは納得しやすいのですが、暑い日にプールに入れないことは感覚的に理解しづらいようです。子供たちの気持ちに寄り添えば、暑いからこそプールに入らせてやりたいというのはやまやまですが、暑すぎる状況だと命に危険をもたらすことがあります。日本水泳連盟の資料を基にプールと熱中症の関係について整理したいと思います。

### 熱中症が起こる原因(特に子供)

子供が大人より熱中症にかかりやすい原因は、体温調節機能がまだ発達していないこと。新陳代謝が盛んで汗をかきやすく水分が失われやすいこと。

### どうしてプールで熱中症にかかるの？

- ・熱中症は体が熱くなることで発症するのではなく、体温調節ができなくなった時に体に熱がこもってしまうことで発症する。
- ・水の中にいると自覚がないが、プールで活動している時、実はたくさんの汗をかいている。
- ・体はプールの中で暑さを感じにくいですが、発汗により水分はどんどん失われていて、いつのまにか脱水を起こしていることがプールでの熱中症の原因。



### プールで熱中症になると

- ・顔が赤くなってポーッとする
- ・体が熱くなり、ぐったりする
- ・発汗異常(汗がすごいor全く汗が出ない)
- ・吐き気、頭痛、体の痛み等・・・時には命の危険に関わることも・・・。

### そこで熱中症を防止するため川内小でのプールを中止とする目安は

**WBGT(暑さ指数) 31℃以上** (日本スポーツ協会「熱中症予防運動指針」参考) とするとともに、水泳授業中においても熱中症にならないよう配慮したいと考えています。

桐生市は昨年度、夏の猛暑日が全国で最多の地域です。そのことから夏休みも8月いっぱいまで延長されます。夏休みのプールの実施については今後の天候をみて検討していきたいと考えています。